

原著論文

人間のComfortの測定道具の開発 Development of the Comfort Scale

金正 貴美 (Takami Kinsho)* 野嶋 佐由美 (Sayumi Nojima)**

要 約

人間のComfortを測定する“Comfort質問紙”を開発し、その妥当性と信頼性を検証することを目的に、本研究を行った。730部の質問紙を配布し郵送法にて回収した。回収率は78.6%、有効回答率は88.7%であり、574部を分析対象とした。探索的因子分析の結果、9下位因子42項目の尺度を作成した。9つのComfortの下位因子は【つながりを感じている】、【よりどころがある】、【前向きである】、【楽しい】、【平穏無事である】、【静かである】、【くつろいでいる】、【体が楽である】、【心地よく運動している】であった。精神的健康 (GHQ) の得点総和、健康関連QOL (SF-36) の8つの下位尺度は、Comfortの得点総和とすべて正の相関があった。Comfort質問紙42項目のCronbach's α 係数は0.94であった。Comfort質問紙は、構成概念妥当性、併存的妥当性、内的整合性が認められた。

Abstract

The present study aimed to examine the concept of comfort and to develop a scale by which comfort can be measured. Questionnaires were distributed to 730 workers that consented to participate in the study and 574 questionnaires were returned by post (recovery rate: 78.6%, response rate: 88.7%). Responses were subjected to explanatory factor analysis by maximum likelihood promax rotation (eigenvalues ≥ 1) and the following nine subscales of comfort were extracted: sensing a connection, having a foundation, thinking positively, having fun, feeling peaceful, feeling tranquil, having a relaxed mind, having a relaxed body, and exercising comfortably. The eight subscales of health-related quality of life (SF-36) and the total score for mental health (GHQ) were all positively associated with total comfort score. Cronbach's α for the comfort scale was 0.94 and the scale was found to have sufficient construct validity, concurrent validity, and internal consistency.

キーワード：Comfort 測定道具の開発

I. はじめに

Comfortは、1860年Florence Nightingaleの時代より看護の目的となり、看護ケアを行った際の患者の心地よい状態、看護師と患者の関係を構築していく際に生じる心地よい状態など、看護実践のなかでの中心概念として大切に育まれてきた。そしてComfortの概念は主としてケアによって痛みなどの不快が除去されている状態といったような、ケアの受け手にとっての意味で用いられてきた。しかし、本当に看護師が捉え支え続けてきたものは、患者の笑顔や人とかかわりのなかで生じる心からのニーズ、前向きな取り組みといったその人の心地よい実感に基

づく主体的なありようではないだろうか。日本看護科学学会看護学術用語検討委員会第9・10期委員会(2011)でも安楽は人間の基本的欲求であり、看護の基本原則として、安全・自立ともに重視される属性であると記しているようにComfortは人間の基本的欲求である。人はニーズが満たされ心地よくなると、生命の維持機構が働きやすくなり自然治癒力が高まる。こうしたComfortの特徴を重視し、人が主体的に実感しているComfortの概念が研究を通じて構築されてこなかった歴史を省み、本研究では人間のComfortを測定する“Comfort質問紙”を開発し、その妥当性と信頼性を検証する。

Comfort理論では、1991年、1992年にKolcaba

*香川大学

**高知県立大学

は、看護介入のアウトカムとしてComfortを捉え、Comfortの3つのタイプ、緩和、安心、超越と、身体的サイコスピリットの環境的社会的なComfortが生じる文脈を組み合わせた分類的構造を作成し、この構造に沿って質問紙を開発した (Kolcaba K, 1991; Kolcaba K, 1992; Dowl T, Kolcaba K, Steiner R, 2006)。このようにComfortは全人的な文脈に位置づくものである。1997年、2000年にMorseは、Comfortを看護師と患者の間で長期的に発展する相互作用が融合した行為であると捉えた。ICNP (看護実践国際分類, 2015) では、Comfortは身体や情緒から生じる感覚からもたらされ、健康で幸福だと実感できるような状態であるという特徴をもつと示されている。Comfortは全人的な文脈に位置づくことから、その人がより主体的であるほど感じられ、また身体や情緒から生じる感覚からもたらされることから、人と関わり生活するなかで実感できる状態であることがわかる。例えば人は歩行中関節に痛みを感じると、自然に痛い箇所を手を当てて温め、痛みを和らげ楽になっている。先行研究より概念分析を行いComfortの5つの属性〔楽である〕、〔体が心地よい〕、〔心が静かである〕、〔つながりを感じている〕、〔今が楽しい〕を抽出し、Comfortを生活のなかで、自らが心地よいと実感している状態であり、不快に対しても自分に対しても社会や人に対しても肯定的で積極的な心地よい状態であると定義づけた (金正, 2016)。

人は、日常生活の様々な不快をもたらす出来事があると心地よい状態になるように、Comfortが意識される生命活動を維持している。不快な状況における自己のComfortを評価することで、客観的に状況を振り返り自己の傾向に気づくことができる。そして自らの感覚を澄ましComfortを意識し強化することで適応への活力を高めるセルフケアとなる。

人は不快に対して主体的に取り組み心地よさを実感しており、また心地よくなることで活力を得ている。こうした人間のComfortを明らかにし、その測定用具を開発することは、患者のComfortの状態を客観的に把握でき、将来的には、看護介入の効果を測定することも可能となり、看護学の発展に貢献する。

II. 研究目的

人間のComfortを測定するComfort質問紙を開発し、その妥当性と信頼性を検証する。

III. 研究方法

1. Comfort質問紙 (試案) の開発

Comfortの質問項目の作成にあたり、Comfortの概念分析の5つの属性を因子とした。質問項目は、Comfortの概念分析から属性を抽出する過程で作成したコードを基に、1つの因子に9～16項目合計57項目を作成した。その過程において、人が生活していくうえでその属性はどのような意味をもつのか、そしてそれは人が自身でどのような状態だと感じているのかを書き出した。さらにコードに戻り、比較することで気づいた点を書き出し、質問項目が属性を表現し属性へと凝集する内容であるよう洗練化した。また1つの因子内の質問項目の意味内容が偏らないよう1項目ずつ何を問うているのか明確にしつつ進めた。

作成したComfort質問紙 (試案) について、内容妥当性および表面妥当性の検討を行った。①内容妥当性の評価は、一般の人々20人に依頼した。本研究は人間のComfortの測定器具を開発することを目的としているため、内容妥当性は一般の人から質問項目が心地よい状態を示しているかどうか評価を受け、感想や意見内容から気づいたことを基にその都度修正を繰り返した。また修正した際には、概念分析のコードに戻り、質問項目がコードの内容を表現しているものであるか確認した。質問項目の内容は修正したが、因子ごとの質問項目数は、内容妥当性の検討前と同様であった。②表面妥当性を高めるために、あいまいさの少ない質問およびわかりやすい教示をめざすための質問作成・教示のガイドライン (鈴木淳子, 2011) を参考にし、質問紙には質問項目ごとに意味がわかるかどうかの欄を設けた。対象は一般の人々と慢性疾患をもち地域社会での生活を営んでいる人々で計15人とした。質問紙は、将来的に看護介入の効果を測定する予定であり、看護の対象である慢性疾患をもっている人からも評価を得ることとした。質問紙への回答後に、質問項目が回答しや

すいか、質問項目の内容が分からず回答に困ることはないか、質問の流れは自然か、問い、修正した。

これらの検討より、Comfort質問紙（試案）は、〔楽である〕10項目、〔体が心地よい〕11項目、〔心が静かである〕12項目、〔つながりを感じている〕14項目、〔今が楽しい〕14項目で構成した。

2. 本調査

1) 対象者

対象者は20歳以上の男女で職業に従事している人とし、研究参加のリスクと利益を検討し、研究への意思決定の判断を自分で行えることを含有条件とした。国立法人や市町村役場や法人企業、個人企業などに依頼し、便宜的抽出法を用いた。有効回答数が500となることを目指して、質問紙の配布を行った。

2) 調査に用いる質問紙

(1) Comfort質問紙（試案）

質問項目数は61項目であり、質問項目の回答の選択肢は、「そう思う：5点」～「そう思わない：1点」の5段階で、得点が高いほどComfortが高い状態であることを表す。

(2) 基準関連妥当性の検討

外的基準として用いた尺度は、精神的健康（GHQ）と健康関連QOL（SF-36）である。Comfortは人間の基本的欲求であり、心地よくなることで生命の維持機構が働きやすくなり、自然治癒力が高まる。そのため精神的健康や健康関連QOLと相関していると予測される。以下にそれぞれの尺度の妥当性および信頼性について記す。

① 精神的健康（GHQ）

精神的健康は、Goldbergが開発したGeneral Health Questionnaire（GHQ）の28項目短縮版を用いる。GHQは神経症のスクリーニングテストとして開発された。主因子分析により12因子が抽出されたが、4因子〔身体的症状〕、〔不安と不眠〕、〔社会的活動障害〕、〔うつ傾向〕と対応しており、4因子として使用している。併存的妥当性では、パーソナリティ尺度との関係を見ており、健常者群、大学生群、神経症者群とも0.9台で正の相関関係を示していた（福西，1990）。精神的健康の質問項目数は28項目であ

る。選択肢の例として、「たびたびあった：1点」「あった：1点」「あまりなかった：0点」「まったくなかった：0点」の4段階である。下位因子は得点が高いほど精神的健康が低い。

② 健康関連QOL（SF-36）

健康関連QOL（SF-36：MOS 36-Item Short-Form Health Survey）は、健康関連QOLを測定する包括的尺度であり、患者の視点に立脚した健康度およびこれに伴う日常・社会生活機能の変化を、計量的心理学的手法によって量的に測定することを目的として作成された尺度である（池上，福原，下妻，2001）。SF-36の妥当性は、福原によって、「身体的健康度」「身体機能」、「日常役割機能（身体）」、「体の痛み」、「全体的健康感」、「精神的健康度」「心の健康」、「日常役割機能（精神）」、「社会生活機能」、「活力」の上位の2因子と下位の8因子構造が示されている（福原，鈴嶋，2011）。信頼性については再検査法で0.78～0.86であり、すべての下位因子において十分な安定性が示されている。得点が高いほど、健康関連QOLが高くなる。

3) 分析方法

得られたデータは、統計用ソフト（SPSS22.0 Statistics Base）を用いて分析を行った。Comfort質問紙（試案）について記述統計を行い、項目分析と探索的因子分析による構成概念妥当性の検討を行い、信頼性および基準関連妥当性の検討を行った。解析データの有意水準は5%未満とした。

3. 倫理的配慮

施設への調査協力依頼時に、対象者に質問紙を配布するまでは調査協力の撤回を自由にできることを説明した。そして調査対象者に質問紙の配布を依頼する際には、質問紙は無記名であり、協力するかどうかは自由意志であることを必ず説明して頂けるよう伝えた。調査対象者には、プライバシーを保護すること、心身の負担、不利益や危険性を最小にすること、調査対象者が受ける利益や看護上の貢献、研究成果の公表の仕方、研究データの収集と保管について十分配慮することを書面で約束した。本研究は、高知県立大学看護研究倫理審査委員会の承認を得て、調査を実施した。

IV. 結 果

1. 対象者の概要について

A県の企業や国・地方自治体等15施設に依頼し、11施設から協力への承諾を頂き質問紙を順次配布した。質問紙は合計730部配布し、574部回収できた（回収率78.6%）。そのうち欠損値のない質問紙は509部であった（有効回答率88.7%）。質問紙の配布および回収期間は、2015年6月9日から7月17日であった。対象者の概要として、男性223人（43.8%）、女性286人（56.2%）であった。年齢は、20歳代56人（11%）、30歳代121人（23.8%）、40歳代141人（27.7%）、50歳代142人（27.9%）、60歳代42人（8.3%）、70歳代4人（0.8%）、80歳代3人（0.6%）であった。

2. Comfortに関する分析

1) Comfort質問紙（試案）について

（1）記述統計

Comfort質問紙（試案）の得点総和は、平均値208、標準偏差35.3、最小値103、最大値297、得点範囲は61～305であった。Comfort質問項目の平均値3.39、標準偏差1.09、最小値1、最大値5、得点範囲は1～5であった。

（2）Comfortの5つの属性に関する結果

概念分析で抽出した属性の記述統計と得点総和とのピアソンの積率相関係数を算出した。Comfort質問紙（試案）の各属性の得点と得点総和との相関は、0.78～0.87と強い相関があった（表1）。

表1 概念分析で抽出されたComfortの記述統計と得点総和との相関 N=509

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	得点総和との相関	p値	獲得率
Comfort質問紙（試案）の得点総和	207.52	35.3	103	297			%
Comfort質問項目	3.39	1.09	1	5			67.80 %
[つながりを感じている]14項目	50.62	9.51	19	70	0.79 *	0.00	72.32 %
[今が楽しい]14項目	47.72	9.85	19	70	0.87 *	0.00	68.17 %
[心が静かである]12項目	40.39	8.50	13	60	0.86 *	0.00	67.31 %
[体が心地よい]11項目	36.99	7.63	15	55	0.84 *	0.00	67.26 %
[楽である]10項目	31.80	7.00	13	50	0.78 *	0.00	63.61 %

* $p<0.05$ で有意である

[つながりを感じている]は平均値50.62、標準偏差9.51であった。最小値19、最大値70であった。またComfort質問紙（試案）の得点総和との相関は0.79（ $p<0.05$ ）であり、獲得率

は72.32%であった。

[今が楽しい]は平均値47.72、標準偏差9.85であった。最小値19、最大値70であった。またComfort質問紙（試案）の得点総和との相関は0.87（ $p<0.05$ ）であり、獲得率は68.17%であった。

[心が静かである]は平均値40.39、標準偏差8.50であった。最小値13、最大値60であった。またComfort質問紙（試案）の得点総和との相関は0.86（ $p<0.05$ ）であり、獲得率は67.31%であった。

[体が心地よい]は平均値36.99、標準偏差7.63であった。最小値15、最大値55であった。またComfort質問紙（試案）の得点総和との相関は0.84（ $p<0.05$ ）であり、獲得率は67.26%であった。

[楽である]は平均値31.8、標準偏差7.0であった。最小値13、最大値50であった。またComfort質問紙（試案）の得点総和との相関は0.78（ $p<0.05$ ）であり、獲得率は63.61%であった。

（3）Comfort質問紙の開発における項目分析と構成概念妥当性の検討

項目分析は、天井効果やフロア効果を示す項目がないかおよびIT相関分析による確認を行った。天井効果を示した項目は2項目あり、フロア効果を示した項目はなかった。IT相関では、Comfort質問紙（試案）の得点総和と各質問項目とのピアソンの積率相関係数の範囲は0.3～0.74（ $p<0.05$ ）であった。天井効果を示した1項目はComfort質問紙（試案）の得点総和と各質問項目とのピアソンの積率相関係数が0.3と最も低かったため、探索的因子分析前に除くこととした。

構成概念妥当性については探索的因子分析で確認した。残りの60項目を用いて、最尤法プロマックス回転（固有値1以上）による探索的因子分析を行い、まず12

因子が抽出された。

因子負荷量が0.35以下の質問項目11項目を除外し、49項目にて因子分析を行い9因子が抽出された。Comfort質問紙は、臨床や地域でより

簡便に使用するために、さらに因子負荷量が低
めの項目や項目の内容が類似していると思われ
る項目を7項目除外し42項目にて因子分析を行

い、9因子が抽出されすべての項目の因子負荷
量が0.35以上であることを確認した(表2)。

表2 Comfort42項目の因子分析結果(最尤法、プロマックス回転)

N=509

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
つながりを感じている	32私は、人の優しさに包まれている	0.80	0.01	0.00	-0.03	0.00	-0.07	0.01	0.05	0.09
	58私は、困った時は人に頼ることで、支えられている	0.77	0.02	-0.11	-0.01	-0.05	0.08	0.06	0.08	-0.12
	29私は人から大切にされている	0.74	-0.03	0.01	0.02	-0.02	-0.13	-0.02	0.04	0.17
	30私は人に関わることで、親しみを感じている	0.72	0.07	0.15	0.07	-0.07	-0.01	-0.02	0.02	-0.13
	52私は、人の愛情を実感している	0.63	-0.05	-0.03	-0.10	0.10	-0.09	-0.07	0.21	0.29
	54私は、あいさつや雑談をして、人と交流している	0.57	0.02	0.14	0.01	-0.02	0.08	0.00	-0.06	-0.01
体が楽である	56私は、人に自分の状況(体調、受診、家族のこと)を配慮してもらっている	0.52	0.01	-0.04	-0.08	-0.02	0.03	0.07	-0.01	0.20
	53私はどんな時も人を信じたい	0.45	0.09	0.00	0.01	0.05	-0.03	0.00	-0.03	0.04
前向きである	10私は、体の調子が良い	0.14	0.79	-0.15	0.04	0.03	0.01	-0.06	0.05	0.01
	1私は、体のどこも痛くない	0.02	0.76	-0.09	-0.12	-0.11	-0.04	-0.03	-0.07	0.00
	13私の体のだるさは、2、3日で自然にとれていく	-0.02	0.68	0.11	0.03	0.05	0.01	0.03	0.06	-0.11
	3私は、1日の疲れを翌日にもちこしていない	-0.10	0.61	0.03	0.04	-0.04	-0.01	0.09	0.01	0.08
	11私は、体の痛みが少しあっても、あまり気にならない	0.07	0.52	-0.05	0.14	0.06	0.05	-0.19	-0.10	-0.12
	17私は、ぐっすり寝ている	0.02	0.51	-0.04	-0.12	-0.05	0.09	0.14	0.04	0.16
静かである	6私は、尿や便のことでわざわざわかっていない	0.02	0.43	-0.06	0.06	0.03	-0.05	-0.05	0.03	0.05
	38私は、自分の夢がある	-0.08	-0.08	0.79	-0.15	-0.03	0.04	0.10	0.10	-0.04
	26私は、くじけずに、何度も挑戦している	-0.04	-0.01	0.73	-0.08	0.04	-0.09	-0.09	0.04	0.10
	40私は、いろいろなことに関心がある	0.18	-0.07	0.67	-0.04	0.05	0.19	0.02	-0.07	-0.29
	37私は、ひとつにこだわらず色々試している	0.09	-0.02	0.52	0.01	0.03	0.25	0.03	-0.13	-0.18
	25私は、今していることが希望につながっている	-0.02	-0.03	0.51	-0.02	-0.07	0.00	-0.08	0.16	0.36
心地よく運動している	50私は、人と比べなくても、自分の中にある良さに気づいている	0.08	-0.03	0.38	0.11	-0.02	-0.03	0.00	-0.07	0.36
	31私は自分ができていることをして、みんなの役に立っている	0.34	-0.05	0.35	0.04	0.02	-0.07	-0.11	-0.06	0.18
	9私は、できていないことも現実だから、これでいいと思う	-0.04	-0.04	-0.21	0.79	0.06	0.05	0.03	-0.03	0.02
	16私は、思いどおりにならないことは、仕方がないと思う	0.07	-0.09	-0.18	0.73	-0.02	0.01	0.08	0.01	0.00
楽しい	15私は、これでいいと思う	-0.08	0.08	0.14	0.72	-0.03	-0.05	-0.04	0.02	0.12
	14私は、あるがままの自分を信じている	0.03	0.12	0.39	0.49	-0.06	-0.10	0.06	-0.01	0.00
	8私は、心の苦しみにとらわれず、事実をあるがままに受けとめている	-0.12	0.11	0.23	0.36	-0.01	0.01	0.03	0.06	0.08
	47私は、自分に合った運動習慣がある	-0.02	-0.06	0.00	-0.02	0.92	0.03	0.01	-0.01	0.00
くつろいでいる	48私は、外出や散歩、運動など自分に合った方法で、体力を保っている	-0.02	-0.02	0.03	0.03	0.91	-0.06	0.03	0.01	0.02
	4私は、自分のペースで気持ちよく体を動かしている	0.03	0.29	0.04	0.00	0.40	0.07	0.00	0.03	0.04
	61私は、やりたいことをして楽しんでいる	-0.08	0.03	0.01	0.03	-0.02	0.83	0.01	0.08	0.12
よがりどころ	60私は、自分の好きなことを積極的に増やしている	-0.05	0.01	0.20	-0.07	0.03	0.73	-0.05	0.00	0.06
	59私は、自分の生活を楽しんでいる	0.09	-0.06	-0.06	0.12	-0.05	0.57	-0.03	0.04	0.43
平穩無事である	43私は、体調が悪い時は、ゆっくりしている	-0.02	-0.05	0.02	0.10	0.03	-0.04	0.80	0.02	0.06
	44私は、仕事の後は、体を休めてくつろいでいる	0.08	0.01	0.01	0.03	0.03	-0.01	0.67	-0.01	0.11
よがりどころ	22私が、心細い時には誰かがそばにいてくれる	0.28	0.03	-0.01	-0.06	0.01	0.02	-0.01	0.69	0.02
	23私は、自分の状況を話して、頼りになる人を見つけている	0.37	-0.05	0.07	0.05	-0.03	0.07	0.07	0.63	-0.18
平穩無事である	49私は、平穩無事に暮らしている	0.25	-0.02	-0.30	0.13	0.01	0.11	0.11	-0.10	0.52
	51私は、今していることを楽しんでいる	0.12	-0.01	0.07	0.04	0.03	0.32	-0.06	-0.06	0.48
	46私は、朝の目覚めがすっきりしている	-0.12	0.37	0.17	-0.24	-0.02	0.02	0.16	-0.04	0.41
	24私は、大切にしたいものを大切にできている	-0.09	-0.01	0.06	0.10	0.04	0.08	-0.05	0.34	0.40
	41私は、朝が気持ちよく迎えられることに幸せを感じている	0.19	0.02	0.32	-0.05	0.04	-0.03	0.10	-0.14	0.36

2) Comfort質問紙

(1) Comfortの下位尺度の命名

Comfort質問紙は探索的因子分析の結果から、9つの因子、42項目から構成される測定道具とした(表2)。因子ごとに質問項目がどのように心地よいと実感している主体的な状態を指し示しているか考え、各因子に含まれている質問項目から内容を抽出し(〈〉で示す)、因子を命名しComfort質問紙の下位尺度とした。

第1因子は、〈人の優しさに包まれ、大切にされていると思い、愛情を実感しており〉、〈人から支えられていると感じており〉、〈自ら心を開いて、人とのつながりを感じている〉状態であり、【つながりを感じている】と命名した。

第2因子は、〈体の調子がよく〉、〈痛みや不快感がなく〉、〈疲れや倦怠感はとれている〉状態であり、【体が楽である】と命名した。

第3因子は、〈自分の夢を抱き自分の良さにも気づいており〉、〈今が困難でも挑戦しており〉、〈自分の関心に沿って取り組んでいる〉状態を示しており、【前向きである】と命名した。

第4因子は、〈できていないことも、思いどおりにならないこともこれでよいと肯定し〉、〈あるがままの自分をよりどころにしながら受け入れ静かである〉状態を示しており、【静かである】と命名した。

第5因子は、〈自分に合った運動習慣があり、体を動かすことが心地よい〉状態を示しており、【心地よく運動している】と命名した。

第6因子は、〈生活のなかで楽しんでいる〉状態を示しており、【楽しい】と命名した。

第7因子は、〈体調に合わせてくつろいでいる〉状態を示しており、【くつろいでいる】と命名した。

第8因子は、〈心細いときにはよりどころがある〉状態を示しており、【よりどころがある】と命名した。

第9因子は、〈心配事がなく穏やかだと思ひ〉、〈大切にしたいものは大切にして幸せを感じながら暮らしている〉状態を示しており、【平穏無事である】とした。

(2) Comfortの得点総和と下位尺度との相関

Comfortの得点総和と下位尺度の相関を算出

した(表3)。Comfortの得点総和と下位尺度との相関は、0.49~0.84とやや強い~強い正の相関($p < 0.05$)であった。下位尺度間の相関は、0.15~0.66とほとんど相関がない~やや強い相関($p < 0.05$)であった。

(3) Comfortの得点総和と下位尺度の記述統計

Comfort質問紙の得点総和と下位尺度の記述統計および獲得率を算出した(表4)。Comfort得点総和の平均値は142.19、標準偏差24.97、最小値71、最大値205の幅があり、項目平均値3.39、獲得率68%であった。

3. 信頼性の検討

信頼性の検討では、内的整合性、Cronbach's α 係数を用い、Comfort質問紙全体、下位尺度のCronbach's α 係数を算出した(表4)。Comfort質問紙全体のCronbach's α 係数は、0.94であった。【つながりを感じている】のCronbach's α 係数は0.88、【よりどころがある】のCronbach's α 係数は0.84、【前向きである】のCronbach's α 係数は0.83、【楽しい】のCronbach's α 係数は0.87、【平穏無事である】のCronbach's α 係数は0.76、【静かである】のCronbach's α 係数は0.81、【くつろいでいる】のCronbach's α 係数は0.77、【体が楽である】のCronbach's α 係数は0.80、【心地よく運動している】のCronbach's α 係数は0.84であった。このようにComfort質問紙全体と下位尺度のCronbach's α 係数は、0.7以上の値であった。

4. 基準関連妥当性の検討

精神的健康(GHQ)と健康関連QOL(SF-36)の尺度を外的基準とし、併存的妥当性を検討した。

1) Comfort質問紙と精神的健康(GHQ)

【Comfortの得点総和】およびComfortの下位尺度と、精神的健康(GHQ)の得点総和および下位因子との関連について、ピアソンの積率相関係数を算出した(表5)。【Comfortの得点総和】は、[GHQの得点総和]とやや強い有意な相関があった($r=0.57, p < 0.05$)。また精神的健康(GHQ)の下位因子とやや強い有意な相関があった。[不安と不眠] ($r = -0.46, p < 0.05$)、[身体症状] ($r = -0.45, p < 0.05$)、[社会的活動障害] ($r = -0.43, p < 0.05$)、[うつ傾向] ($r =$

- 0.43、 $p < 0.05$)であった。Comfortの下位尺度とGHQの下位因子の各因子間相関は、ほとんどないからやや強い有意な相関があった ($r = -0.15 \sim -0.53$ 、 $p < 0.05$)。

2) Comfort質問紙と健康関連QOL (SF-36)

【Comfortの得点総和】と、健康関連QOL (SF-36)との関連について、ピアソンの積率相関係数を算出した(表6)。**【Comfortの得点総和】**は、健康関連QOL (SF-36)の因子〔活力〕とやや強い有意な相関があり ($r = 0.66$ 、 $p < 0.05$)、

〔心の健康〕ともやや強い有意な相関があり ($r = 0.64$ 、 $p < 0.05$)、〔全体的健康感〕ともやや強い有意な相関があった ($r = 0.60$ 、 $p < 0.05$)。また〔日常役割機能(精神)〕と弱い有意な相関があり ($r = 0.37$ 、 $p < 0.05$)、〔社会生活機能〕とも弱い有意な相関があり ($r = 0.34$ 、 $p < 0.05$)、〔体の痛み〕とも弱い有意な相関があり ($r = 0.33$ 、 $p < 0.05$)、〔身体機能〕とも弱い有意な相関があり ($r = 0.27$ 、 $p < 0.05$)、〔日常役割機能(身体)〕とも弱い有意な相関があった ($r = 0.22$ 、 $p < 0.05$)。

表3 Comfortの得点総和と下位尺度の相関

	Comfortの得点総和	つながりを感じている	よりどころがある	前向きである	楽しい	平穩無事である	静かである	くつろいでいる	体が楽である	心地よく運動している
Comfortの得点総和	-	0.75	0.57	0.77	0.76	0.84	0.68	0.49	0.71	0.60
つながりを感じている	0.75	-	0.66	0.57	0.53	0.56	0.39	0.23	0.37	0.25
よりどころがある	0.57	0.66	-	0.44	0.38	0.41	0.27	0.17	0.25	0.15
前向きである	0.77	0.57	0.44	-	0.62	0.62	0.46	0.24	0.35	0.39
楽しい	0.76	0.53	0.38	0.62	-	0.66	0.44	0.32	0.41	0.47
平穩無事である	0.84	0.56	0.41	0.62	0.66	-	0.52	0.43	0.55	0.47
静かである	0.68	0.39	0.27	0.46	0.44	0.52	-	0.31	0.45	0.33
くつろいでいる	0.49	0.23	0.17	0.24	0.32	0.43	0.31	-	0.34	0.36
体が楽である	0.71	0.37	0.25	0.35	0.41	0.55	0.45	0.34	-	0.45
心地よく運動している	0.60	0.25	0.15	0.39	0.47	0.47	0.33	0.36	0.45	-

すべて $p < 0.05$ で有意である

表4 Comfortの得点総和と下位尺度の記述統計および内的整合性

Comfortの得点総和と下位尺度	項目数	最小値	最大値	平均値	得点可能範囲	標準偏差	項目平均値	獲得率	Cronbach's α 係数	p値
Comfortの得点総和	42	71	205	142.19	42~210	24.97	3.39	68%	0.94	0.00
つながりを感じている	8	10	40	29.60	8~40	5.19	3.70	74%	0.88	0.00
よりどころがある	2	2	10	7.11	2~10	1.60	3.56	71%	0.84	0.00
前向きである	7	7	35	23.57	7~35	4.59	3.37	67%	0.83	0.00
楽しい	3	3	15	10.49	3~15	2.26	3.50	70%	0.87	0.00
平穩無事である	5	5	25	17.79	5~25	3.18	3.56	71%	0.76	0.00
静かである	5	5	25	16.71	5~25	3.74	3.34	67%	0.81	0.00
くつろいでいる	2	2	10	6.74	2~10	1.60	3.37	67%	0.77	0.00
体が楽である	7	7	35	21.54	7~35	5.35	3.08	62%	0.80	0.00
心地よく運動している	3	3	15	8.62	3~15	2.84	2.87	57%	0.84	0.00

すべて $p < 0.05$ で有意である

表5 Comfortと精神的健康 (GHQ) との関係

Comfortの得点総和と下位尺度	GHQ得点総和		身体症状		不安と不眠		社会的活動障害		うつ傾向	
	GHQ得点総和	p値	身体症状	p値	不安と不眠	p値	社会的活動障害	p値	うつ傾向	p値
Comfortの得点総和	0.57 *	0.00	-0.45 *	0.00	-0.46 *	0.00	-0.43 *	0.00	-0.43 *	0.00
つながりを感じている	0.31 *	0.00	-0.18 *	0.00	-0.21 *	0.00	-0.26 *	0.00	-0.34 *	0.00
よりどころがある	0.26 *	0.00	-0.15 *	0.00	-0.18 *	0.00	-0.25 *	0.00	-0.25 *	0.00
前向きである	0.35 *	0.00	-0.25 *	0.00	-0.26 *	0.00	-0.26 *	0.00	-0.35 *	0.00
楽しい	0.42 *	0.00	-0.29 *	0.00	-0.35 *	0.00	-0.36 *	0.00	-0.29 *	0.00
平穩無事である	0.56 *	0.00	-0.40 *	0.00	-0.48 *	0.00	-0.43 *	0.00	-0.41 *	0.00
静かである	0.44 *	0.00	-0.34 *	0.00	-0.35 *	0.00	-0.33 *	0.00	-0.34 *	0.00
くつろいでいる	0.35 *	0.00	-0.32 *	0.00	-0.31 *	0.00	-0.26 *	0.00	-0.19 *	0.00
体が楽である	0.51 *	0.00	-0.53 *	0.00	-0.43 *	0.00	-0.33 *	0.00	-0.26 *	0.00
心地よく運動している	0.36 *	0.00	-0.34 *	0.00	-0.31 *	0.00	-0.25 *	0.00	-0.19 *	0.00

* $p < 0.05$ で有意である

表6 Comfortと健康関連QOL (SF-36) との関係

	身体機能	p値	日常役割 機能身体	p値	体の痛み	p値	全体的 健康感	p値	活力	p値	社会生活 機能	p値	日常役割 機能精神	p値	心の 健康	p値
Comfortの得点総和	0.27 *	0.00	0.22 *	0.00	0.33 *	0.00	0.60 *	0.00	0.66 *	0.00	0.34 *	0.00	0.37 *	0.00	0.64 *	0.00

N=509
*p<0.05で有意である

V. 考 察

1. Comfortについて

Comfortは概念分析より、5つの属性〔楽である〕、〔体が心地よい〕、〔心が静かである〕、〔つながりを感じている〕、〔今が楽しい〕が抽出されたが、探索的因子分析により、9つの因子が抽出された。それはおおむね5つの内容が9つに細分化されたような結果であった。〔つながりを感じている〕は、〔つながりを感じている〕と〔よりどころがある〕にである。〔今が楽しい〕は、〔前向きである〕と〔楽しい〕にである。〔心が静かである〕は、〔平穏無事である〕と〔静かである〕にである。〔楽である〕は、〔くつろいでいる〕と〔体が楽である〕にである。〔体が心地よい〕は、〔心地よく運動している〕である。これらを表7に示す。このことは、Comfortには5つの属性があるという事前仮説が、9つの下位尺度へとより類似性をもった質問項目が集まり具体性が増した結果といえる。Rankin-Box (1986) は、Comfortとは身体と情緒の両面のWell-being (健康で幸福な状態) に関連すると述べ、このことからComfortは、その人が生活するなかで身体面、情緒面から主体的に心地よさを実感している状態といえる。本研究の結果より、〔くつろいでいる〕、〔体が楽である〕、〔心地よく運動している〕といった身体から感じる側面、〔つながりを感じている〕、〔よりどころがある〕といった人と関わることでの対人関係の側面、〔平穏無事である〕、〔静かである〕といった社会から影響を受ける自己の内面における側面、〔前向きである〕、〔楽しい〕といった生活のなかで行動していく側面といった4つの側面から、人は不快をもたらす状況にあっても主体的に向かい合い取り組み心地よさを実感していることが明らかになった。

このことからComfortとは生活のなかで主体的に心地よさを感じている状態であり、どのような状況にあっても〔つながりを感じている〕、〔よりどころがある〕と実感して人との絆を紡

ぎ深め、〔前向きである〕、〔楽しい〕と実感してその人らしく行動することである。また社会から影響を受ける自己の内面においても〔平穏無事である〕、〔静かである〕と実感して心配事からの揺らぎを吸収し、身体面においても〔くつろいでいる〕、〔体が楽である〕、〔心地よく運動している〕と状況に沿ってその人に合った方法で実感することで自然治癒を促す力となると定義した。

表7 概念分析と因子分析の結果の対比

概念分析	因子分析の結果
〔つながりを感じている〕	〔つながりを感じている〕 〔よりどころがある〕
〔今が楽しい〕	〔前向きである〕 〔楽しい〕
〔心が静かである〕	〔平穏無事である〕 〔静かである〕
〔楽である〕	〔くつろいでいる〕 〔体が楽である〕
〔体が心地よい〕	〔心地よく運動している〕

2. Comfortの測定道具

信頼性とは、測定の正確さ、つまり測定すべき事物、概念(真値)を正確に測定できている程度である。本研究では、 α 係数にて信頼性係数を算出した。 α 係数は測定が繰り返し行われたときの得点間の相関係数の推定値であると考えられ、信頼性係数の推定値のなかでは最も低い値を示す(古谷野, 長田, 2014)。Comfort質問紙全体のCronbach's α 係数は0.94、9つの下位尺度のCronbach's α 係数も0.76~0.88であり、それぞれ0.7以上を示したため、全体および下位内である程度の信頼性が認められた。

妥当性とは、測定された指標が概念を適切に表している程度をいう(古谷野, 長田, 2014)。そして測定道具で得られた得点から、意味ある有用な推測を引き出すことができるかどうかのための努力を報告することを意味している(John W. Creswell, 2014)。

構成概念妥当性は、構成概念と測定値との関係を、ある種の統計手法により吟味する方法であり、本研究では相関係数の算出、探索的因子分析を行った。Comfort質問紙（試案）のデータ分析では、Comfortの質問項目の総和と5つの属性との相関は、0.78~0.87と強い相関があった。Comfort質問紙の開発における探索的因子分析より9つの因子が抽出され、すべての項目の因子負荷量が0.35以上であり、他の因子の因子負荷量は0に近かった。よって9つすべての因子の質問項目の所属は明瞭であり、因子負荷は単純な構造であった。各因子別の、Comfortの因子総和との相関は、0.47~0.82と比較的強い~強い正の相関（ $p < 0.05$ ）がみられた。因子間相関は、0.12~0.66とほとんど相関がない~やや強い正の相関（ $p < 0.05$ ）があった。因子はほぼ互いに関連し、Comfortの因子総和とも関連しており単一概念であることを示せた。

併存的妥当性の検討では、Comfortの得点総和と精神的健康（GHQ）の得点総和は、 $|r|=0.57$ （ $p < 0.05$ ）であり、やや強い相関があった。Comfortの下位尺度と精神的健康（GHQ）総和は、 $|r|=0.26 \sim 0.56$ （ $p < 0.05$ ）であり、弱い~やや強い相関があった。先行研究でも、精神的健康がよいほど、快適度が上がる（秋山，三島，中野，他，2000）ことが報告されており、相関があったことからComfort質問紙の妥当性が確認された。またその妥当性係数もやや強い程度であり、強すぎず同じものを測定していないことを示していた。

またComfortの得点総和と健康関連QOL（SF-36）の8因子との相関は、 $|r|=0.22 \sim 0.66$ （ $p < 0.05$ ）であり、弱い~やや強い相関があった。特にComfortの得点総和と〔活力〕は、 $|r|=0.66$ （ $p < 0.05$ ）であり、先行研究から人が心地よいニーズ、Comfortを満たすことで活力が高まると述べられており、Comfortと活力に関係があることを数値で示した。またComfortの得点総和と全体的健康感は、 $|r|=0.60$ （ $p < 0.05$ ）であり、先行研究からComfortになることで自然治癒力が高まると述べられており、Comfortと全体的健康感に関係があることも数値で示した。今後はComfortが活力や全体的健康感を予測できるものであるかどうか予測的妥当性を検討する必要がある。

3. Comfort質問紙の臨床での活用可能性

Comfortは人間の基本的な欲求であり、看護の基本原則である。人がComfortになることは看護そのものも表している。看護は人と共にあり人が主体性を持って向かおうとしている方向へと支えている。Comfort質問紙は、人の心地よいニーズ、Comfortを感じ取りながら支える看護ケアの成果を測定できる。Comfortはポジティブな状態であり、回答しやすいのも特徴である。

慢性期にある人が自分の調子のよい時や悪い時の自分のありように気づくためのセルフケアシートとしても使用できる。前向きになれないときや人とかかわることが難しいときは、早い段階で自己認識し自己を休ませ自分が何を感じていてどうしたいと思っているのか気づききっかけにできるだろう。

多職種が連携しそれぞれの専門性を発揮しながらチームで全人的に患者・家族を支援するアプローチにおいても、問題が解決するだけでなく患者の主体的な行動が人とのつながりを通じて多側面に広がるよう支援することは必須の課題である。Comfort質問紙は、そうした多職種アプローチのケアの成果の測定道具としても提案できるのではないだろうか。

4. 研究の限界と今後の課題

Comfort質問紙（試案）の得点総和と5つの属性との相関は、0.78~0.87と強い相関があったが、Comfort質問紙の得点総和と下位尺度との相関は、0.49~0.84とやや強い~強い相関であった。このことは探索的因子分析により下位尺度内の質問項目数が少ない因子が生じたことが要因と考えられる。探索的因子分析により下位尺度が明確になったことで、今後は下位尺度を軸としながら対象の特性やそのニーズを捉えたComfortを質問項目として検討していくことが課題である。

Comfort質問紙は、内的整合性、構成概念妥当性、併存的妥当性を確認したものの、再現性の検討をおこなっておらず尺度に安定性があるのか今後検討する必要がある。また入院中の患者の心地よいニーズ、Comfortを感じ取りながら支える看護ケアの成果を測定できるよう療養上の課題に沿って質問項目を吟味する必要がある。

る。またComfortの概念のさらなる発展のために予測的妥当性を検討することや、確証的因子分析にて検証する必要がある。

VI. 結 論

本研究の目的は、人間のComfortを測定する“Comfort質問紙”を開発し、その妥当性と信頼性を検証することである。

1. Comfort質問紙は、探索的因子分析にて、【つながりを感じている】、【よりどころがある】、【前向きである】、【楽しい】、【平穏無事である】、【静かである】、【くつろいでいる】、【体が楽である】、【心地よく運動している】の9つの下位尺度からなる42項目版が開発された。

2. Comfort質問紙の信頼性について、Comfort質問紙全体のCronbach's α 係数は0.94であり、9つの下位尺度のCronbach's α 係数も0.76~0.88であり、それぞれ0.7以上を示したため、全体および下位内である程度の内的整合性が認められた。

3. Comfort質問紙の併存的妥当性は、Comfortの得点総和と9つの下位尺度が、精神的健康(GHQ)総和と下位因子との間で正の相関があったこと、そしてComfortの得点総和と健康関連QOL(SF-36)の8つの下位因子が正の相関があったことから確認された。

4. Comfort質問紙は、人の心地よいニーズ、Comfortを感じ取りながら支える看護ケアの成果を測定できる。

謝 辞

本研究の質問項目作成のためにご意見を下さいました皆様および調査にご協力下さいました施設長の方々、調査用紙への回答と郵送での返却にご協力下さいました皆様、心より御礼申し上げます。

本研究において、申告すべき利益相反事項はありません。

〈引用文献〉

秋山ひろみ, 三島徳雄, 中野修治, 他 (2000). 職場の主観的快適度に影響を与える要因についての検討. 産業ストレス研究, 7(3), 231-

240.

Dowd T, Kolcaba K, Steiner R. (2006). Development of the healing touch comfort questionnaire, *Holist Nurs Pract*, 20(3), 122-9.

Florence Nightingale. (1860) / 小林章夫, 竹内喜 (1998). フロレンスナイチンゲール: 看護覚え書-対訳, 206. 東京都: うぶすな書院.

福西勇夫 (1990). 日本版 General Health Questionnaire (GHQ) のcut-off point. *心理臨床*, 3(3), 228-234.

福原俊一, 鈴嶋よしみ (2011). SF-36v2™日本語版マニュアル (第3版). 認定NPO法人健康医療評価研究機構, 7-8. 京都: iHope International 株式会社.

古谷野亘, 長田久雄 (2014). 実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方-, 31-37. 東京都: ワールドプランニング.

International Council of Nurses. (2015).

Comfort ICNP-Broeser-NEW.

<http://www.icn.ch/ICNP-Browser-NEW.html>.

(2016. 4. 24)

池上直己, 福原俊一, 下妻晃二郎, 他 (2011). 臨床のためのQOL評価ハンドブック. 医学書院, 32-42. 東京都: 医学書院.

John W. Creswell. (2003) / 操華子, 森岡崇 (2007). 研究デザイン-質的・量的・そしてミックス法, 176. 東京都: 日本看護協会出版会.

Katharine Y., Kolcaba. (1991). A Taxonomic structure for the concept comfort, *Image J Nurs Sch*, 24(4), 237-240.

Katharine Y., Kolcaba. (1992). Holistic comfort: Operationalizing the construct as a nurse-sensitive outcome, *Adv Nurs Sci*, 15(1), 1-10.

金正貴美 (2016). Comfortの概念分析. 香川大学看護学雑誌, 20(1), 1-14.

Morse JM, Havens-GAD, Wilson-S. (1997). The comforting interaction developing a model of nurse-patient relationship. *Scholarly-Inquiry-for-Nursing-Practice*, 11(4), 321-341.

Morse JM. (2000). On Comfort and Comforting. *American Journal of Nursing*, 100(9), 34-

48.
日本看護科学学会看護学学術用語検討委員会
第9・10委員会，野嶋佐由美委員長（2011）.
看護学を構成する重要な用語集，2. 東京都：
日本看護科学学会.

Rankin-Box D. (1986). *Comfort. Nursing*, 3(9),
340-342.

鈴木淳子（2011）. 質問紙デザインの技法. ナ
カニシヤ出版, 158-161. 京都：ナカニシヤ
出版.